

サクッとさくま

佐久間分校文化祭「佐高祭」
に潜入！
パンプキンレディースさんと共に
ごまちゃんの出張販売

佐久間ダムへの構造に迫る！

川合花の舞に参加しました！
経緯&練習

中部の歴史に迫る
なぜ今の中部があるのか

人懐っこいあたたかい生徒 佐久間分校
観光名所 佐久間ダム
我々も参加させていただきました！ 川合花の舞
中部の歴史&街歩き

最終特別号



集落を見下ろす小高い場所
に位置した歴史のある
曹洞宗の寺である川合院
寺の周囲には約250mの道
歩道があり、春は新緑、
秋は紅葉を楽しむことが
できる。
また、この川合院の遊歩
道の途中には点々と七福
神が鎮座しており、すべ
て拝むことができたなら幸
せになれる、という言い
伝えがある。
産米繁盛や家内安全を守
る神の恵比寿大神、富や
繁栄をもたらす神で、特
に商人に人気の大黒天、
勝利や戦勝、武運をもた
らす神で、戦の神様とし
ても知られる毘沙門天、
知恵や芸術、音楽の神で
特に学問や芸能に関する
ご利益がある辨財天、長
寿や健康、幸運をもたら
す神の福祿寿、長寿を守
り、生命力を与える神の
寿老人、幸福や財運、安
産をもたらす神で、笑顔
でお腹を抱えた姿が特徴
の布袋尊の計七人の神々
で構成される。川合院で
は、「ほけ除け・身代わり
地蔵尊」を加えた計8体
の像を拝することができ
る。七福神めぐりは主に新
年に行われ、特に正月の初
詣の一環として行われる
ことが一般的だ。
通常は七つの神社をそれ
ぞれにひとつの神が祀られ
ているため、七福神めぐ
りをする際には七つの寺
社を参拝する。しかし、
ここ川合院では、遊歩道
に八体の像があるため、
一カ所で完結するという、
全国的にも珍しい七福神
めぐりが行える寺だ。



お食事処やま正

浜松市佐久間町から車で20分程度の、愛知県北設楽郡東栄町本郷にあるお食事処やま正。
昔ながらの風情ある店内で、穏やかなひとときを楽しめます。
海鮮丼の他にも、鶏唐揚げ定食やヒレカツ丼が人気。

Instagram : @yamashou.toei
HP: <https://yamashou-touei.com/>

浜松市立湖北高校佐久間分校は静岡県浜松市天竜区佐久間町中部にある県立高等学校。2007年に浜松市立佐久間中学校が移転し、全国初となる同居型中高連携一貫教育となった。もともととは佐久間高等学校であったが、2011年に佐久間高等学校が閉校。同年に静岡県立浜松湖北高等学校が敷地を引き継ぎ、佐久間分校を設置した。

現在（2024年5月1日現在）は2、3年生が各5人、1年生が2人で、今年度入学者数が基準を満たさなかったため、来年度以降新入生の受け入れ停止となった。つまり、今年年で廃校という運びとなった。

そんな佐久間分校の強みは生徒の主体性だ。小さな学校で人間関係が狭いことから、生徒を様々な人間と関わらせるべく授業を行い、外部の人間と触れさせている。そのため、生徒が知らない人とも臆せず接せられる点が強み。

実際に佐久間分校で、遠くに見えた生徒が我々に対して大きな声で挨拶してくれたことから、生徒が外部の人間と接する抵抗が少なく、人懐っこく明るい印象を受けることができた。

おいでよ!! 佐久間分校!!



2024年11月19日、佐久間分校高校2年生を対象に特別講義を行わせていただいた。タイトルは「静大生と考える佐久間の未来プランー地域資源の再生と活用ー」。

前半の授業時間を活用して我々がこれまで行ってきた活動内容とあわせて活動の失敗点と成功点を説明した。そして授業後半では、授業タイトル通り地域資源の再生と活用を考えるべく、「浦川キャンプ村」の活用方法をグループに分かれて考え、まとめたものを発表した。

浦川キャンプ村は、現在人を呼び込むべく施策を講じている。そのため今回の授業では、浦川キャンプ村の魅力や改善点を生徒と我々静大生が考え、そこから考えられる方針や解決策をまとめあげた。

講義内で出たアイデアの例として「星や紅葉を活用する」「季節ごとのイベントの開催」「クラウドファンディング」「釣り堀としての活用」などがあつた。

2024年6月9日（日）我々静岡大学地域創造学環佐久間フィールドメンバーが、佐久間分校での文化祭に合わせ、以前より協力させていたでいたパンプキンレディースさんと商品の販売活動を行った。

いつも販売しているパンプキンレディースさんの名物お菓子「こまちゃん」をN種類のサイズに加え、飲み物やヨーヒーゼリー、おにぎり、パウンドケーキ、げんこつ、お菓子などの販売を行った。

生徒への販売では飲み物を中心に様々なものを購入しており、一般販売でも地域の方や生徒の保護者の方、生徒の兄弟や卒業生など多種多様な人々が商品を手に取っていた。

常に販売を行い、あまり地域の人と話すことはできなかったのだが、パンプキンレディースさんとお話できたほか、郷土のお菓子であるこまちゃんの人気度を肌で確かめることができた。

その後生徒の発表ステージが体育館で行われており、よさこいのステージを拝見することができた。先生生徒を含めた30人ほどで発表をおこなっていたのが印象的で、200人ほどはいらっしゃっている観客席付近をまわるパフォーマンスもあり、一体感がある感動的で壮大なステージだった。



佐久間ダムは、静岡県浜松市天竜区と愛知県北設楽郡豊根村にまたがる天竜川に建設された大規模なダム。日本有数の水力発電ダムで、中部電力が管理している。

基本情報

- ・完成年：1956年（昭和31年）
- ・型式：アーチ重力式コンクリートダム
- ・高さ：155.5メートル
- ・総延長：293.5メートル
- ・総貯水容量：3億3,300万立方メートル

デカいぞ！ 佐久間ダム！



毎年10月最終日曜日に開催される「佐久間ダム竜神まつり」では、佐久間ダム建設時の殉職者を慰霊している。この祭りでは、殉職者の霊を慰め、ダムの繁栄を祈願するため、「竜神の舞」などの伝統的な催しが行われる。

佐久間ダムは建設当時、日本で最も高いダムだった。今でも規模の大きさは国内トップクラス。佐久間発電所（最大出力35万キロワット）が併設されており、中部地方の電力供給を支えている。日本の戦後復興の一環として建設され、当時は最新の技術が投入された。ダム建設のために「佐久間線」という鉄道路線（後に廃止）も作られた。佐久間ダム周辺は紅葉や新緑の名所で、ドライブやハイキングにも人気がある。また、ダム湖（佐久間湖）では釣りやボートも楽しめる。我々が訪れた際も、バイカーたちがツーリングをしに来ていた。一方で、ダムへのゴミ捨てが問題となっているようで、上から見下ろすとゴミが溜まっているのが見受けられた。



川合 調査 花の舞

川合花の舞に

参加しました！！

【川合花の舞】

佐久間町川合に鎮座する八坂神社に伝承されている湯立神楽で、毎年10月最終土曜日に奉納される。三遠南信地域の中では毎年一番最初に開催される湯立て神楽だ。八坂神社の拝殿前には注連縄で区画された2間四方の舞処が設営し、中心に湯立の釜が据えられ、釜の上にはキリコで飾られたユブタが吊り下げられ、舞処内の釜の周りで芸能が演じられる。

ご縁があって、静岡大学地域創造学環佐久間フィールドのメンバーが川合花の舞に参加することとなった。私たちだけでは人数が足りなかったため、学内でメンバー募集を行った。そしてメンバーが集まった後、川合花の舞保存会の水上さんの指導のもと、合計9回の事前練習を行った。

最初は練習の日程調整に苦労したが、工夫を重ねることでスムーズに練習を進めることができた。また、練習の合間には「花切り」や「しめ縄作り」などの準備もお手伝いさせていただいた。

そして、いよいよ花の舞本番。会場設営を終え、女子メンバーは屋台の手伝いを、男子メンバーは荷物運びなどの力仕事を行った。その後、他の演目を観覧した後、自分たちの出番となった。練習では小さな動きと硬い表情が目立ったが、本番のハウツカの四つ舞いでは、意識せずとも自然に笑顔がこぼれ、ほとんどミスなく演技を終えることができた。

これまで何十回も花の舞を見てきた地域の方々を感動させることができ、舞が終わった後も「素晴らしい発表だった」と地域の方々からお褒めの言葉をたくさんいただき、非常に誇らしく、貴重な経験となった。

さらに、急遽おかめの舞にも出演することになった。おかめは面白おかしい格好をして、鈴や五平餅を持ちながら舞いを披露する演目で、途中で曲調が変わり、舞手が観覧車の顔に五平餅の味噌を塗りたくるというユニークな内容だ。塗られた人には縁起が良いとされ、予定よりも長時間にわたり、10倍以上の人数に味噌を塗ることとなった。その他にもいくつかの演目に参加したり、楽しんだりすることができ、体力的には疲れたが、本当に楽しく、学びの多い貴重な経験をさせていただいた。

この場を借りて、川合花の舞保存会及び川合の皆さん、本当にありがとうございました。



深山 の 祝祭



花祭り・花の舞の成り立ちには風来寺の助力があったが、現在は風来寺の鬼の祭りは廃れている。花祭り・花の舞は、平安時代に京都・奈良で成立した。その後鎌倉時代に三遠南信に伝わった。記録によると、室町など比較的新しく作られた寺にも伝わっている。三遠南信に花祭り以外に鬼にまつわる祭りが多く広がっている。追いやられがちな鬼だが、三遠南信では「鬼様」と称されている。これは数百年かけて地元根付いてきたことから神様のようにあがめられてきたと考えられている。京都・奈良では展開されていない独自の発展の形だ。また、湯立神楽には本来鬼は登場しないが、上記のとおり古くから根付いており、元にはどうしても必要だったため、八坂神社（川合）では大正まで行われており、今はなくなった神楽の花の舞で使用していた神楽鬼のお面が使われている。古い祭りの文化・スピリットが今なお継承されているのだ。

小道具を持たせてもらいました！



浦川町中部に住む雑貨屋「三輪屋」の三輪さんに中部を歴史とともに解説していただいた。以下は教えていただいた中部の歴史や特徴だ。当時、まだダムがなかった天竜川に木材を流して運搬し、製紙会社が使っていた。街にレンガ造りが多く残っているのは、王子製紙という大きな工場の残り。残っていたレンガを子どもたちが寄せ集めてお小遣いにしていたそう。地場産業がなかったところに製紙工場ができ、その工場で稼いで年貢を払っていたため「バラサイト」、何かに寄生して生きてる地域だと言われていた。地場で立ち上がる地政学的体力がないため、地方再生の社会的アプローチは難しいそう。

明治に2度の大火があった。1回目は大きな写真の右半分、2回目は左半分。中部は全て燃えたことがある地域なのだ。そのため、この街には明治以降のものしか残っていない。薬師堂は江戸末期から燃えずに残っている。



三輪さん
2024年当時67歳
浦川町中部で150
年ほど続く雑貨屋の
三輪屋を営んでいる
若い頃は東京で映画
監督をしていた

戦後すぐにダムが大工事で大フィーバーし、一気に何万人と住んだ。昔は商店街が通り2本ほどあり、八百屋も5.6軒あり、三輪さんの家も本屋だった。だが、ダム工事が終わると日本でも有数の過疎に。ダム工事の頃は家が700棟、そこから300棟、170棟、と減っていき今は150棟ほどになっている。しかしいまだに発電所などダム関連で生活している人は多い。過疎の余波でお祭り、盆踊りなどの儀式がどんどん崩壊し、コミュニティが壊れ共同体は希薄になっている。中部には「地割れ花火」というお祭りがある。河川敷が狭いため、音が大きくドカンドカンと響く有名な花火大会だ。しかし、今は神輿も下ろせなくて屋台と花火だけの観光イベントになっている。神事はお宮だけでやってはいるものの、儀式がなくなっている現状だ。中部では少子高齢化が進んでおり、子どもも親もおらず、67歳で若手と呼ばれるほどだ。その分街ぐるみの付き合いが多く、駅を降りたら知らない家がない、そんな関係の街だ。



原田久吉は、地域の人々をまとめ、佐久間川の治水工事を行い、水害を防ぐための堤防や水路の整備を進めた。治水事業によって、佐久間町中部を含む広い地域の人々が洪水から守られ、生活環境が大きく改善されたとされている。原田は他にも小学校や原田橋を作り、顕彰碑が残っている。

中部

歴史残る街
なかべ

